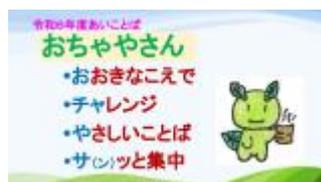


みどりの風



令和7年3月21日発行 No.20
校長 池田 誉

卒業おめでとう

8名の6年生が、今日3月21日、門出の日を迎え、富原小学校を巣立っていきました。ご卒業、本当におめでとうございませう。

入学してからの6年間、心身共に大きく成長した子どもたち。保護者の皆様にとっては、いろいろなご心配やご苦勞もあったことと思いますが、立派に成長されたお子様の姿に感慨もひとしおのことと思います。

特に6年生としての1年間、富原小学校の中心として、何事にも一生懸命取り組んできた姿は立派でした。日々の学習や生活、数々の行事の中で、すばらしい思い出がたくさんできたことと思います。一人一人がより個性を発揮して、自信をもってこれからの中学校生活に進んでほしいと思います。

今日で小学校を巣立っていくみなさんですが、時には小学校に立ち寄って元気な顔を見せてください。そして、いつまでも富原の子である誇りをもってがんばってください。



学校関係者評価について

学校関係者評価とは、保護者や地域住民などによる委員会が、学校の教育活動や運営について評価を行うことです。学校評価の1つで、学校運営の改善や教育水準の向上を目的としています。令和6年度の本校の教育活動について、2月末に学校運営協議会委員の方に評価していただきました。いただいたご意見を紹介します。

- 岡山大学の佐藤暁教授をブレーンにして協同学習を研究し、対話的で深い学びのある授業に改善していこうとする意欲が伝わってくる。授業を参観すると、対話的な授業ができており、研究を実践に繋げている様子が窺える。
- 一輪車やマラソン等に低学年から取り組んでいる。授業参観をすると児童は励まし合って楽しく運動に取り組んでいる姿が印象的である。体力テストの結果を見ると運動能力の低下が懸念される。課題のある項目について重点的に指導する必要がある。
- 児童は落ち着いた環境で学習することができているが、学力調査等の結果につながっていない。さらに個に対応した学習を工夫する必要がある。
- 基礎基本を定着させるためには、家庭学習も大切である。家庭学習の意味を保護者に啓蒙し、その重要性を保護者も認識できるような手立てが必要である。

- 運動会や学習発表会等の行事では、おとなしい児童も自分の殻を破って粘り強く活動をし、児童自ら工夫をしながら一生懸命取り組んでいる姿が見られた。
- メディア使用時間が増加傾向にあるのが気にかかる。メディア使用時間、家庭学習時間、睡眠時間には相関関係があると思われる。これらは、家庭で取り組む課題であるので保護者への働きかけが必要である。
- 不登校児童がいないということは、学校に落ち着いた環境があるということである。教職員が問題を早期に発見し早期に対応している成果が表れていると思う。
- 林業やこんにやく作り等、富原ならではの学習を展開し、伝統的産業について理解が進んでいる。地域の教材や人材を上手に活用して郷育ができており、今後も継続していただきたい。
- 積極的に地域の関連団体や保育園と連携を図り、地域の行事に参加したり保育園と一緒に活動したりして、教育の場を広げている。また、地域学校協働本部を上手に活用してボランティアを教育活動や環境整備に生かしている。
- 地域住民は、学校便り「みどりの風」から情報を得て富原小学校の今の様子を理解することができた。とても参考になった。ホームページを見る機会は少なかった。

今回いただいたご意見や、保護者の方の評価を参考に、現在、令和7年度の教育活動を準備しているところです。学校、家庭、地域が協力し、役割を分担しながら富原小学校の子どもたちを育てていきたいと思っております。今後とも皆様のご協力をお願いいたします。